

## 令和6年度教育課程進度計画表


 関西医療学園専門学校  
 理学療法学科

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖生理学 [到達目標] 人体の構造と機能の学習の根幹を成す科目であり、各器官の形態や構造とその部位及びその働きについて学習する。人体を構成する組織、器官の構造と機能を把握し、その機能異常としての病気の理解へと繋がられることを目標とする。	1年 講義6単位(180時間) <b>必修</b> 実習1単位(30時間) <b>必修</b> 1. 解剖生理学の領域 2. 細胞膜 3. 細胞質 4. 核 5. 細胞周期と細胞分裂 6. 遺伝子とゲノム 7. クロマチン 8. 染色体 9. DNAの構造① 10. " ② 11. 組織の構成①(上皮組織) 12. " ②(腺) 13. " ③(結合組織) 14. 骨①(構造) 15. "②(構成要素①) 16. "③( " ②) 17. "④(再構築) 18. "⑤(骨髄) 19. "⑥(発生) 20. "⑦(成長) 21. "⑧(骨折) 22. "⑨(関節) 23. "⑩(骨格①) 24. "⑪( " ②) 25. 筋①(骨格筋①) 26. "②( " ②) 27. "③( " ③) 28. "④(平滑筋) 29. "⑤(心筋) 30. 体液 31. 血液① 32. " ② 33. 止血 34. 血液型 35. 免疫機構にかかわる器官① 36. " ② 37. 防御反応① 38. " ② 39. 心臓① 40. " ② 41. 心筋の興奮① 42. " ② 43. 心臓のポンプ作用 44. 血管の構造とはたらき① 45. " ② 46. " ③ 47. 循環の調節 48. リンパ系 49. 呼吸器系の構造① 50. " ② 51. 呼吸のしくみ①

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖生理学	52. 呼吸のしくみ② 53. 栄養 54. エネルギー代謝 55. 体温① 56. " ② 57. 消化器① (構造) 58. " ② (口腔と咽頭) 59. " ③ (食道・胃) 60. " ④ (小腸) 61. " ⑤ (大腸) 62. " ⑥ (肝臓) 63. " ⑦ (脾臓) 64. " ⑧ (栄養素の消化と吸収①) 65. " ⑨ ( " ②) 66. 神経細胞① 67. " ② 68. シナプス 69. 神経細胞の電気的興奮 70. シナプスにおける興奮 71. 神経膠細胞 72. 中枢神経① 73. " ② 74. " ③ 75. 末梢神経 76. 自律神経 77. 視覚系① 78. " ② 79. 聴覚系① 80. " ② 81. 平衡感覚系 82. 化学感覚系 83. 皮膚① 84. " ② 85. ホルモン① 86. " ② 87. 視床下部と下垂体のホルモン① 88. " ② 89. 甲状腺ホルモン① 90. " ② 91. カルシウム代謝に関与するホルモン① 92. " ② 93. 副腎ホルモン① 94. " ② 95. 膵臓のホルモン① 96. " ② 97. その他のホルモン 98. 腎臓① (構造) 99. " ② (はたらき) 100. 排尿 101. 生殖器 (分化と発達・男性生殖器・女性生殖器) 102. 生理学実習① 103. " ② 104. 解剖見学実習① 105. " ② 指定教科書 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」(医学書院) 「標準理学療法学・作業療法学 生理学」(医学書院) 「日本人体解剖学上巻」(南山堂) 「生体のしくみ標準テキスト第3版 新しい解剖生理」(医学映像教育センター) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と の発達	基礎運動学  [到達目標] 骨、筋をはじめとする運動器の基本構造やその役割及び作用について学習し、ヒトの正常な運動についての理解を深める。健常者の各種正常動作のメカニズムについて説明することができ、正常な状態からの逸脱動作としての異常動作への理解に繋がられることを目標とする。	1年 講義2単位 (60時間 <span style="border: 1px solid black;">必修</span> ) 実習1単位 (30時間 <span style="border: 1px solid black;">必修</span> )  1. 運動学概論① (運動・身体運動の面と軸) 2. " ② (関節運動の表し方) 3. 運動器の構造と機能① (肩甲帯) 4. " ② (上腕の骨) 5. " ③ (前腕の骨) 6. " ④ (手の骨) 7. " ⑤ (骨盤帯の骨) 8. " ⑥ (大腿の骨) 9. " ⑦ (下腿の骨) 10. " ⑧ (足の骨) 11. " ⑨ (体幹の骨) 12. " ⑩ (胸郭の骨) 13. 関節の構造と機能 14. 筋の構造と機能① (筋の微細構造) 15. " ② (筋収縮機序) 16. " ③ (運動単位と筋張力) 17. " ④ (筋収縮の様態・筋肥大と筋萎縮) 18. 四肢の筋と運動① (肩甲帯の筋と靭帯) 19. " ② (肩甲帯の運動) 20. " ③ (肩関節の筋と靭帯) 21. " ④ (肩関節複合体の運動) 22. " ⑤ (肘関節の筋と靭帯) 23. " ⑥ (肘関節と前腕の運動) 24. " ⑦ (手関節・手の筋と靭帯) 25. " ⑧ (手関節と手の運動) 26. " ⑨ (手の変形) 27. " ⑩ (股関節の筋と靭帯) 28. " ⑪ (股関節の運動) 29. " ⑫ (膝関節の筋と靭帯) 30. " ⑬ (膝関節の運動) 31. " ⑭ (足関節・足の筋と靭帯) 32. " ⑮ (足関節・足の運動) 33. " ⑯ (足の変形) 34. 体幹の筋と運動① (頭頸部の筋と靭帯) 35. " ② (頭頸部の運動) 36. " ③ (脊柱の筋と靭帯) 37. " ④ (体幹の運動) 38. " ⑤ (胸郭の筋と靭帯) 39. " ⑥ (胸郭の運動) 40. " ⑦ (呼吸の種類と筋活動) 41. " ⑧ (腰部・腹部の筋と靭帯) 42. " ⑨ (腰部・腹部の運動) 43. 姿勢 (重心・安定性・姿勢の保持機構) 44. 歩行・運動学実習 45. 身体運動のバイオメカニクス・運動学実習  指定教科書「基礎運動学」(医歯薬出版) 「日本人体解剖学上巻」(南山堂) 「骨格筋の形と触察法」(大峰閣) 基礎運動学 Work book <span style="border: 1px solid black;">電子版</span>  成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	<p>臨床心理学</p> <p>[到達目標] 臨床心理学の必要性とその歴史、基本理論と方法論、人格理解の基本原則と方法、心理療法の基本原則と技法ならびに心理臨床の実際について学習する。これらを通して、理学療法士が対象とするヒトの心理や自己理解を深め、心理学的に適切な対応が取れるようになることを目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学概論</li> <li>2. 心理検査総論</li> <li>3. 質問紙法検査</li> <li>4. MMPI・YG性格検査・CMI</li> <li>5. 不安検査 (MAS・STAI) ・うつ検査 (SDS・BDI)</li> <li>6. 投影法検査① (ロールシャッハ検査・TAT)</li> <li>7. " ② (PF-スティー・SCT・ソングテスト)</li> <li>8. 描画による投影法検査 (人物テスト・バウムテスト・HTP・家族画法 ・風景構成法)</li> <li>9. 作業検査法・知能検査 (ビネー式知能検査・ウェクスラー式知能検査 ・K-ABC・ITPA)</li> <li>10. 乳幼児精神発達検査</li> <li>11. 高齢者向け検査・精神心理学的検査</li> <li>12. 心理療法① (認知行動療法・家族療法)</li> <li>13. " ② (力動的療法・交流分析)</li> <li>14. " ③ (ゲシュタルト療法・来談者中心療法・フォーカシング)</li> <li>15. " ④ (ナラティブセラピー・短期療法・集団療法・心理劇・催眠・マインドフルネス)</li> </ol> <p>指定教科書 資料デジタル配信</p> <p><b>成績評価</b> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	<p>人間発達学</p> <p>[到達目標] 理学療法の対象者は、新生児から高齢者まで広範囲であり、対象者の発達状況に応じて、適切な理学療法を提供する必要があるが、各々の対象者が、どのような発達過程にあるか、またその過程における課題、正常な発達から逸脱した発達学的問題を捉え、各発達過程における課題を解決することを考える能力の習得を目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>) 実習 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間発達学の概要</li> <li>2. 小児の成長・発育と発達</li> <li>3. 胎生期</li> <li>4. 姿勢反射と姿勢反応① (新生児期にみられる姿勢反射・姿勢反応①)</li> <li>5. " ② ( " ②)</li> <li>6. " ③ ( " ③)</li> <li>7. " ④ ( " ④)</li> <li>8. " ⑤ ( " ⑤)</li> <li>9. " ⑥ (新生児期以降にみられる姿勢反射・姿勢反応①)</li> <li>10. " ⑦ ( " ②)</li> <li>11. " ⑧ ( " ③)</li> <li>12. " ⑨ ( " ④)</li> <li>13. 姿勢・運動の発達① (腹臥位の発達①)</li> <li>14. " ② ( " ②)</li> <li>15. " ③ ( " ③)</li> <li>16. " ④ (背臥位の発達①)</li> <li>17. " ⑤ ( " ②)</li> <li>18. " ⑥ ( " ③)</li> <li>19. " ⑦ (座位の発達①)</li> <li>20. " ⑧ ( " ②)</li> <li>21. " ⑨ (立位・歩行の発達)</li> <li>22. " ⑩ (ヘッドコントロールの発達)</li> <li>23. 上肢機能の発達</li> <li>24. 遊びの発達①</li> <li>25. " ②</li> <li>26. 言語の発達①</li> <li>27. " ②</li> <li>28. 発達検査法</li> <li>29. 保育所実習①</li> <li>30. " ②</li> </ol> <p>指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト」 (南江堂) 人間発達学 Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>病 理 学</p> <p>[到達目標]          病因と病態、遺伝子異常と発生発達異常、細胞傷害、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について学ぶ。また、がんの定義、病期分類、病理診断についても学習する。これらにより、理学療法士として必要な病理学的知識の理解を目標とする。</p>	<p>1年 講義2単位 (60時間 <u>必修</u>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション病理学ってなに？</li> <li>2. はじめに 病因</li> <li>3. 細胞傷害・再生①</li> <li>4. " ②</li> <li>5. 炎症①</li> <li>6. " ②</li> <li>7. 免疫①</li> <li>8. " ②</li> <li>9. 循環障害①</li> <li>10. " ②</li> <li>11. " ③ 各疾患</li> <li>12. 先天性異常・遺伝子疾患</li> <li>13. 感染症①</li> <li>14. " ②</li> <li>15. 環境因子・栄養</li> <li>16. 症例からみた疾患①</li> <li>17. 腫瘍①</li> <li>18. " ②</li> <li>19. " ③ 各疾患</li> <li>20. 生活習慣病・代謝①</li> <li>21. " ②</li> <li>22. " ③ 各疾患</li> <li>23. 老年症候群、中枢神経系</li> <li>24. 運動器① (骨・関節)</li> <li>25. " ② (筋肉)</li> <li>26. 造血器</li> <li>27. 呼吸器</li> <li>28. 内分泌器</li> <li>29. 腎・泌尿器、生殖器</li> <li>30. 症例からみた疾患②</li> </ol> <p>指定教科書 「はじめの一步の病理学」(羊土社)          資料デジタル配信</p> <p><u>成績評価</u> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>臨床医学総論</p> <p>[到達目標] 地域包括ケアシステムの構築が進められるなかで、理学療法士の業務は医療提供施設から在宅まで及び、他職種連携により共通する医学的な知識や技術が求められている。本講義では、理学療法士として必須である疾病に関する知識、薬理の基礎やフィジカルアセスメントの方法を習得することを目標とする。</p>	<p>1年 講義 2単位 (60時間 <u>必修</u>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション 身近な症状</li> <li>2. 痛み① (腹痛)</li> <li>3. " ② (頭痛)</li> <li>4. " ③ (胸痛)</li> <li>5. " ④ (関節痛、筋肉痛)</li> <li>6. 咳、クシャミ、痰</li> <li>7. 嘔吐</li> <li>8. 下痢</li> <li>9. 尿の異常</li> <li>10. 症例からみる症状①</li> <li>11. 貧血</li> <li>12. 浮腫、脱水</li> <li>13. 出血</li> <li>14. めまい</li> <li>15. 発熱</li> <li>16. 体重増加、減少</li> <li>17. 黄疸</li> <li>18. リンパ節</li> <li>19. ショック</li> <li>20. 症例からみる症状②</li> <li>21. 胸痛</li> <li>22. 脈拍異常</li> <li>23. 呼吸困難</li> <li>24. 意識障害</li> <li>25. 血圧低下</li> <li>26. 薬理の基礎①</li> <li>27. " ②</li> <li>28. " ③</li> <li>29. " ④</li> <li>30. " ⑤</li> </ol> <p>指定教科書 「一目でわかる病態生理」 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「リハベータック薬理学・臨床薬理学」 (医歯薬出版)</p> <p><u>成績評価</u> 前期レポート</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>画像医学</p> <p>[到達目標] 画像情報から障害の原因となっている部位の初期状態、治療結果、治療効果などの客観的かつ視覚的情報を得ることで、障害との関連付けを行い、治療に反映させるため、医師による読影及び画像診断のプロセスを理解することを目的とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <u>必修</u>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論</li> <li>2. 画像診断の基本</li> <li>3. 脳画像①</li> <li>4. " ②</li> <li>5. " ③</li> <li>6. 脊椎・脊髄画像①</li> <li>7. " ②</li> <li>8. 骨・関節画像①</li> <li>9. " ②</li> <li>10. 胸部画像①</li> <li>11. " ②</li> <li>12. " ③</li> <li>13. " ④</li> <li>14. 摂食嚥下①</li> <li>15. " ②</li> </ol> <p>指定教科書 「リハビリテーション医療に活かす画像のみかた」(南江堂)</p> <p><u>成績評価</u> 後期試験</p>



分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>スポーツ栄養論・予防管理論</p> <p>[到達目標]            栄養障害が機能回復に影響を及ぼすことからリハ栄養ケアプロセスの過程を理解する。障害者やフレイル高齢者の栄養状態の評価・推論を行い、機能・活動・参加・QOL獲得にリハからみた栄養と予防管理について学ぶことを目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養</li> <li>2. 代謝</li> <li>3. エネルギー消費量と摂取量</li> <li>4. 運動処方栄養と運動のタイミング</li> <li>5. 栄養と運動のタイミング</li> <li>6. NSTと栄養アセスメント</li> <li>7. 検査測定</li> <li>8. サルコペニア</li> <li>9. 機能改善か機能維持か</li> <li>10. 症例検討 (廃用症候群)</li> <li>11. 予防理学療法の定義</li> <li>12. 予防理学療法の領域</li> <li>13. 理学療法分野における管理</li> <li>14. 組織・業務管理</li> <li>15. 教育システムと経営管理</li> </ol> <p>指定教科書 「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養」(医歯薬出版)            予防管理論 Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 後期試験(栄養論)            後期レポート(予防管理論)</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>内科学</p> <p>[到達目標] 循環器、呼吸器、神経、内分泌・代謝、消化器、血液、感染、免疫・アレルギー・膠原病など内科学全般について学ぶとともに、X線・CT・MRI画像の診断のポイントについても学び、理学療法士として必要な内科学的知識の理解を目標とする。</p>	<p>1年 講義2単位 (60時間 <u>必修</u>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科学の概要</li> <li>2. 診断・治療①</li> <li>3. " ②</li> <li>4. 症候学①</li> <li>5. " ②</li> <li>6. " ③</li> <li>7. 循環器疾患①</li> <li>8. " ②</li> <li>9. 呼吸器疾患①</li> <li>10. " ②</li> <li>11. 消化管疾患①</li> <li>12. " ②</li> <li>13. 肝胆膵疾患①</li> <li>14. " ②</li> <li>15. 血液・造血器疾患①</li> <li>16. " ②</li> <li>17. 代謝性疾患①</li> <li>18. " ②</li> <li>19. 内分泌疾患①</li> <li>20. " ②</li> <li>21. 腎・泌尿器疾患①</li> <li>22. " ②</li> <li>23. 膠原病・アレルギー疾患①</li> <li>24. " ②</li> <li>25. 感染症疾患①</li> <li>26. " ②</li> <li>27. 中毒①</li> <li>28. " ②</li> <li>29. 皮膚疾患①</li> <li>30. " ②</li> </ol> <p>指定教科書 「標準理学療法学・作業療法学内科学」 (医学書院)</p> <p><u>成績評価</u> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学 [到達目標] 運動器リハビリテーションに関連する骨、靭帯、筋肉・腱の軟部組織について、画像診断を中心とする診断方法と治療方法を学び、上肢、脊柱、下肢の部位別の整形外科的治療を理解することを目標とする。	1年 講義2単位 (60時間 <b>必修</b> ) 1. 総論 2. 診断 3. 治療 4. 疾患総論① (軟部組織・骨・関節の感染症) 5. " ② (関節リウマチ) 6. " ③ (慢性関節疾患) 7. " ④ (四肢循環障害) 8. " ⑤ (先天性骨系統疾患) 9. " ⑥ (先天異常症候群) 10. " ⑦ (代謝性骨疾患) 11. " ⑧ (骨腫瘍) 12. " ⑨ (軟部損傷) 13. " ⑩ (神経・筋疾患) 14. 疾患各論① (肩関節) 15. " ② (肘関節) 16. " ③ (手関節・手) 17. " ④ (頸椎) 18. " ⑤ (胸郭) 19. " ⑥ (胸椎・腰椎) 20. " ⑦ (股関節) 21. " ⑧ (膝関節) 22. " ⑨ (足関節・足) 23. 外傷学① (軟部組織損傷) 24. " ② (骨折・脱臼) 25. " ③ (脊椎・脊髄損傷) 26. " ④ (末梢神経障害) 27. スポーツ障害① (スポーツ外傷) 28. " ② (障害者スポーツ) 29. 運動器のリハビリテーション① 30. " ②  指定教科書 「標準整形外科学」 (医学書院) 「病気がみえるvol.11 運動器・整形外科」 (メディックメディア) 整形外科学 Work book <b>電子版</b>  <b>成績評価</b> 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>小児科学</p> <p>[到達目標] 小児の成長と発達、栄養、小児保健での小児の特徴を学ぶ。また各臓器の形態的・機能的特徴、症状、診断、治療について学習し、理学療法士として必要な小児科的知識の習得を目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児概論</li> <li>2. 診断・検査</li> <li>3. 新生児・未熟児</li> <li>4. 先天異常と遺伝</li> <li>5. 神経・筋・骨系疾患</li> <li>6. 循環器疾患</li> <li>7. 呼吸器疾患</li> <li>8. 感染症</li> <li>9. 消化器疾患</li> <li>10. 内分泌・代謝疾患</li> <li>11. 血液疾患</li> <li>12. 免疫・アレルギー疾患</li> <li>13. 腎・泌尿器系疾患</li> <li>14. その他の疾患</li> <li>15. 重症心身障害児</li> </ol> <p>指定教科書 「標準理学療法学・作業療法学 小児科学」(医学書院) 小児科学 Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>脳神経内科学</p> <p>[到達目標] 神経系の疾患を対象として、疾患の疫学、病理、診断、治療、予防を領域とする医学の領域を学び、リハビリテーション医療における基礎的知識を習得することを目標とする。</p>	<p>2年 講義2単位 (60時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経内科学総論</li> <li>2. 神経・筋疾患とリハビリテーション</li> <li>3. 神経解剖学</li> <li>4. 神経生理学</li> <li>5. 神経薬理学</li> <li>6. 分子遺伝学①</li> <li>7. " ②</li> <li>8. 神経系の発達と加齢</li> <li>9. 神経診断学① (各機能の診かた①)</li> <li>10. " ② ( " ②)</li> <li>11. " ③ (検査法①)</li> <li>12. " ④ ( " ②)</li> <li>13. 神経疾患各論① (脳血管障害①)</li> <li>14. " ② ( " ②)</li> <li>15. " ③ (変性疾患①)</li> <li>16. " ④ ( " ②)</li> <li>17. " ⑤ (脱髄疾患)</li> <li>18. " ⑥ (末梢神経障害①)</li> <li>19. " ⑦ ( " ②)</li> <li>20. " ⑧ (筋疾患)</li> <li>21. " ⑨ (神経筋接合部疾患)</li> <li>22. " ⑩ (腫瘍)</li> <li>23. " ⑪ (脊髄疾患)</li> <li>24. " ⑫ (感染性疾患)</li> <li>25. " ⑬ (先天異常・脳性麻痺)</li> <li>26. " ⑭ (代謝・中毒性疾患)</li> <li>27. " ⑮ (外傷)</li> <li>28. " ⑯ (自律神経疾患)</li> <li>29. " ⑰ (機能性疾患)</li> <li>30. " ⑱ (認知症)</li> </ol> <p>指定教科書 「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学」 (医学書院)</p> <p><b>成績評価</b> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	<p>精神医学</p> <p>[到達目標] 身体機能面に介入する理学療法士であるが、精神医学的な観点での知識が必須となってきた。本講義では、人間の精神機能、疾患の特徴、薬物療法などの理解をし、理学療法士として、どのように対応していくべきかを考えていくことを目標とする。</p>	<p>2年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医学概説</li> <li>2. 神経認知障害 (Alzheimer型認知症・脳血管性認知症・Levy小体型認知症・前頭側頭型認知症・Creutzfeldt-Jakob病・治療可能な認知症)</li> <li>3. 精神作用物質による精神行動障害</li> <li>4. 統合失調症① (概念・病因・症状)</li> <li>5. " ② (薬物療法・効果と副作用)</li> <li>6. 双極性障害 (双極Ⅰ型障害・双極Ⅱ型障害・気分循環性障害)</li> <li>7. 抑うつ性障害 (うつ病・持続性抑うつ障害・重篤気分調節症)</li> <li>8. 神経症性障害 (パニック症・強迫症・PTSD・解離性障害)</li> <li>9. 生理及び身体的要因に関連した障害 (摂食障害・心身症・睡眠障害)</li> <li>10. 発達障害 (自閉スペクトラム症・AD/HD・限局性学習症)</li> <li>11. パーソナリティ障害</li> <li>12. てんかん</li> <li>13. 関連法規・社会制度</li> <li>14. 精神・心理検査</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>指定教科書「メディカルスタッフ専門基礎科目 シリーズ 精神医学」(理工図書)</p> <p><b>成績評価</b> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門 礎 分野	保健医療福祉 とリハビリテーション	リハビリテーション医学 [到達目標] リハビリテーション 医学の理念及び歴史、 ならびにリハビリテー ションの対象となる疾 患についての医学的知 識及び診断とその治療 の方法を学び、代表的 疾患のリハビリテーシ ョンの概略を理解する ことを目標とする。	1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b> ) 1. リハビリテーションの定義と歴史 2. 障害論 3. 評価・検査・治療 4. 疾病と外傷① (脳・脳卒中) 5. " ② (脊髄・脊髄損傷) 6. " ③ (関節・関節リウマチ) 7. " ④ (小児疾患) 8. " ⑤ (神経筋) 9. " ⑥ (末梢神経) 10. " ⑦ (外傷) 11. " ⑧ (脊椎) 12. " ⑨ (内部疾患) 13. " ⑩ (切断) 14. " ⑪ (高齢者) 15. " ⑫ (その他の疾患) 指定教科書 「標準整形外科学」 (医学書院) 「病気がみえるvol.11 運動器・ 整形外科」 (メディックメディア) リハビリテーション医学 Work book <b>電子版</b> <b>成績評価</b> 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	<p>リハビリテーション総論</p> <p>[到達目標]  リハビリテーションの概念と定義及び歴史的変遷、ノーマライゼーション・障害者の自立生活運動を理解したうえで、障害者及び障害者と国際分類、障害者の心理と障害受容、医学的・教育的・職業的・社会的リハビリテーションについて学ぶとともに、チーム医療における役割と連携、高齢者のサルコペニアやフレイルの問題についても学習し、理学療法士として不可欠なリハビリテーションについて理解することを目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論① (リハビリテーションの概念・理念)</li> <li>2. " ② (定義・ノーマライゼーション)</li> <li>3. 健康と障害① (疾病と障害の分類)</li> <li>4. " ② (ICIDH)</li> <li>5. " ③ (ICF)</li> <li>6. 廃用症候群</li> <li>7. 誤用症候群と過用症候群</li> <li>8. 障害受容</li> <li>9. リハビリテーションの過程</li> <li>10. リハビリテーションの諸相</li> <li>11. 医療とリハビリテーション</li> <li>12. リハビリテーション専門職種・チームアプローチ</li> <li>13. ADL・QOLの概念と評価</li> <li>14. 地域リハビリテーションと社会資源</li> <li>15. リハビリテーション施設見学</li> </ol> <p>指定教科書 「リハビリテーション概論」  (永井書店)  リハビリテーション総論  Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 前期試験</p>



分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション各論 [到達目標] 地域で暮らす障害者の自立支援、就労支援及び地域包括ケアシステムの活動とそれに携わる多職種連携を理解し、生活期を中心に障害のある子供や成人・高齢者の疾患別リハビリテーションについて学ぶことを目標とする。	1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b> ) 1. 障害者の自立支援と就労支援 2. 多職種連携に関する理解 3. 地域包括ケアシステム 4. 疾患別リハ①(脳血管片麻痺) 5. " ②(パーキンソン病) 6. " ③(筋萎縮側索硬化症(ALS)) 7. " ④(脊髄損傷) 8. " ⑤(関節リウマチ) 9. " ⑥(大腿骨頸部骨折) 10. " ⑦(癌) 11. " ⑧(虚血性心疾患) 12. " ⑨(呼吸器疾患) 13. ヒトの発達(発達の時期と特徴) 14. 発達の評価・検査 15. 小児のリハビリテーション  指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト」 (南江堂) リハビリテーション各論 Work book <b>電子版</b>  <b>成績評価</b> 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション各論 [到達目標] 各疾患別の理学療法に基づいて臨床的な思考を育てる。症例検討では、画像、生化学検査、診断のための各種検査の結果を示し、症例患者のICFとADL能力を整理しながら、理学療法の展開について学ぶことを目標とする。	2年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b> ) 1. ICFとADL 2. 廃用症候群 3. 症例検討 4. 脳卒中 5. 症例検討 6. パーキンソン病 7. 症例検討 8. がん 9. 症例検討 10. 誤嚥性肺炎 11. 症例検討 12. 大腿骨近位部骨折 13. 症例検討 14. 慢性心不全 15. 症例検討 指定教科書 リハビリテーション各論 Work book <b>電子版</b> <b>成績評価</b> 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	<p>理学療法学総論</p> <p>[到達目標] 理学療法の定義や関係法規など基本的内容のうえに、理学療法士の役割、臨床思考、実際の理学療法の流れ、活躍している現場、教育・管理について学習療法、理学療法士について理解することを目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法の歴史・概念</li> <li>2. 理学療法士に求められるもの・倫理</li> <li>3. 理学療法の対象疾患① (脳血管障害・脊髄損傷・中枢神経の変性疾患)</li> <li>4.           "           ② (中枢神経の変性疾患・末梢神経疾患)</li> <li>5.           "           ③ (整形外科疾患)</li> <li>6.           "           ④ (呼吸器疾患)</li> <li>7.           "           ⑤ (心疾患)</li> <li>8.           "           ⑥ (その他の内部疾患)</li> <li>9. 理学療法士の活動領域</li> <li>10. 運動療法の運動の種類①</li> <li>11.           "           ②</li> <li>12. 物理療法の種類①</li> <li>13.           "           ②</li> <li>14. 理学療法の評価過程</li> <li>15. 医療事故</li> </ol> <p>指定教科書 理学療法学総論Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 前期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	<p>運動療法学総論</p> <p>[到達目標] 理学療法の大きな柱となる運動療法について、定義・目的・対象・歴史と運動療法を実施するうえで必要な知識、各種治療手技を学び、運動療法について理解することを目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定義と概念① (歴史・目的・種類)</li> <li>2. 定義と概念② (対象疾患・器械器具)</li> <li>3. 定義と概念③ (特殊な運動療法・体操)</li> <li>4. 運動を引き起こす力による分類</li> <li>5. 運動の筋収縮様式による分類</li> <li>6. 関節可動域障害に対する運動療法①</li> <li>7. " ②</li> <li>8. " ③</li> <li>9. " ④</li> <li>10. 筋力低下に対する運動療法①</li> <li>11. " ②</li> <li>12. " ③</li> <li>13. " ④</li> <li>14. 筋持久力に対する運動療法①</li> <li>15. " ②</li> </ol> <p>指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト」 (南江堂) 運動療法学総論Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	<p>日常生活活動学</p> <p>[到達目標] 日常生活に行われている基本的・応用的動作などのADL概念を学び、評価法、動作分析法について理解するとともに、障害やその重症度に応じた動作方法の指導、福祉用具の選定、住環境整備等についての知識の習得を目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ADL概念と範囲</li> <li>2. ADLと障害・ADLとQOL</li> <li>3. ADLと運動学</li> <li>4. ADL評価①</li> <li>5. " ②</li> <li>6. 自助具・日常生活用具</li> <li>7. 歩行補助器</li> <li>8. 車椅子</li> <li>9. ADL指導の実際① (片麻痺)</li> <li>10. " ② (脊髄損傷)</li> <li>11. " ③ (脳性麻痺)</li> <li>12. " ④ (関節リウマチ)</li> <li>13. " ⑤ (人工股関節術後)</li> <li>14. " ⑥ (下肢切断)</li> <li>15. " ⑦ (神経筋疾患・難病)</li> </ol> <p>指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト」 (南江堂) 日常生活活動学Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 前期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	<p>動作分析学</p> <p>[到達目標] 主として運動器疾患で生じる可動域制限や筋力低下から生じる起き上がり動作、立ち上がり動作及び歩行動作の逸脱動作について学習し、各々の動作についての逸脱動作の原因を理解し、説明できることを目標とする。</p>	<p>2年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動作分析の目的</li> <li>2. 正常歩行の基本外転</li> <li>3. 正常歩行におめる下肢・体幹の役割</li> <li>4. 歩行における下肢関節運動と機能①</li> <li>5. " ②</li> <li>6. 足関節に関連した異常歩行①</li> <li>7. " ②</li> <li>8. 膝関節に関連した異常歩行①</li> <li>9. " ②</li> <li>10. 股関節に関連した異常歩行①</li> <li>11. " ②</li> <li>12. 椅子からの立ち上がり①</li> <li>13. " ②</li> <li>14. 起き上がり①</li> <li>15. " ②</li> </ol> <p>指定教科書 「動作のメカニズムがよくわかる実践！動作分析」(医歯薬出版) 動作分析学 Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 前期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	<p>運動療法学各論</p> <p>[到達目標] 1年次の運動療法総論で学んだ基礎知識をもとに、内部障害及び小児疾患における運動療法について学ぶ。各疾患の特性と障害によるリスク管理を考慮した運動の効果・負荷設定について理解することを目標とする。</p>	<p>2年 講義 1単位 (30時間) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> 実習 1単位 (30時間) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動時の呼吸代謝反応</li> <li>2. 運動時のエネルギー代謝</li> <li>3. 運動時の栄養</li> <li>4. 呼気ガス分析</li> <li>5. 酸素化能</li> <li>6. 酸塩基平衡</li> <li>7. 運動負荷試験①</li> <li>8. " ②</li> <li>9. METsの考え方</li> <li>10. 運動処方</li> <li>11. 運動耐容能①</li> <li>12. " ②</li> <li>13. 内部障害に対する運動療法総論</li> <li>14. 呼吸器疾患の呼吸代謝反応</li> <li>15. 呼吸器疾患のリスク管理</li> <li>16. 心疾患の呼吸代謝反応</li> <li>17. 心疾患のリスク管理</li> <li>18. 糖尿病疾患の呼吸代謝反応</li> <li>19. 糖尿病疾患のリスク管理</li> <li>20. 腎不全の呼吸代謝反応</li> <li>21. 腎不全のリスク管理</li> <li>22. がん疾患の呼吸代謝反応</li> <li>23. がんのリスク管理</li> <li>24. 低出生体重児・ハイリスク児①</li> <li>25. " ②</li> <li>26. 発達障害児に対する理学療法評価①</li> <li>27. " ②</li> <li>28. 神経生理学的アプローチ</li> <li>29. 小児のボツリヌス療法</li> <li>30. 補装具・福祉機器</li> </ol> <p>指定教科書 「Crosslink理学療法学テキスト 内部障害理学療法学」(メジカルビュー) 運動療法学各論Work book <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">電子版</span></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">成績評価</span> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法管理	<p>理学療法教育管理</p> <p>[到達目標]            リハビリテーションチームの一員である理学療法士には、高い臨床能力に加え、管理能力が必要である。これを養うため、診療・介護報酬制度、リスク管理及び危機管理ならびに病院管理等を学ぶことにより、マネジメントスキルを養うことを目標とする。</p>	<p>2年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療保険①</li> <li>2. " ②</li> <li>3. 介護保険</li> <li>4. 診療報酬①</li> <li>5. " ②</li> <li>6. リスクマネジメント</li> <li>7. 病院管理</li> <li>8. 理学療法教育</li> <li>9. 労務管理</li> <li>10. コミュニケーション</li> <li>11. 身分法と職能団体</li> <li>12. 職業倫理</li> <li>13. キャリアラダー</li> <li>14. 自己研鑽とスキルアップ</li> <li>15. 感染予防</li> </ol> <p>指定教科書 理学療法教育管理Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 前期レポート</p>



分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 管理理学	<p>理学療法教育管理</p> <p>[到達目標] 診療報酬制度及び介護報酬制度を理解することにより、理学療法士が行う業務が社会資源の消費であることを理解する。 医療従事者の業務が医療・介護サービスであると同時に患者・利用者サービスであることを理解し、医療提供施設の運営及び管理について理解する。 また、リスクマネジメントとクライシスマネジメントに関し正しい認識をもって対応できる医療従事者としての資質を養う。</p>	<p>3年 講義 1単位 (30時間 <u>必修</u>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療報酬点数表の読解①</li> <li>2. " ②</li> <li>3. " ③</li> <li>4. " ④</li> <li>5. " ⑤</li> <li>6. 介護報酬単位表の読解①</li> <li>7. " ②</li> <li>8. 医療福祉経営①</li> <li>9. " ②</li> <li>10. " ③</li> <li>11. " ④</li> <li>12. 病院管理①</li> <li>13. " ②</li> <li>14. 医療におけるリスクマネジメントと危機管理①</li> <li>15. " ②</li> </ol> <p>指定教科書 「保健行政法学第13版」 (関西医療学園専門学校)</p> <p><u>成績評価</u> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法評価学	<p>評価学総論</p> <p>[到達目標]            患者の障害像を理解するため、日常生活活動を評価するポイント、器官別の病態、全身に影響する臓器関連について学習し、理学療法評価を行う際に、臓器不全が全身へ与える影響を理解し、説明できることを目標とする。</p>	<p>1年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法評価の目的と流れ</li> <li>2. 理学療法評価で用いる用語とその意味</li> <li>3. 医学的情報収集① (呼吸器疾患①)</li> <li>4. " ② ( " ②)</li> <li>5. " ③ (循環器疾患①)</li> <li>6. " ④ ( " ②)</li> <li>7. " ⑤ (腎疾患①)</li> <li>8. " ⑥ ( " ②)</li> <li>9. " ⑦ (肝疾患①)</li> <li>10. " ⑧ ( " ②)</li> <li>11. 医療面接・問診①</li> <li>12. " ②</li> <li>13. 日常生活活動と基本動作との関連性</li> <li>14. 基本動作と機能的制限との関連性</li> <li>15. 動作制限と機能障害との関連性</li> </ol> <p>指定教科書 「動作のメカニズムがよくわかる実践！動作分析」 (医歯薬出版)            「統合と解釈がよくわかる実践！理学療法評価学」 (医歯薬出版)</p> <p><b>成績評価</b> 後期レポート</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 評価学	<p>評価学各論</p> <p>[到達目標] 1年次の評価学総論で学んだ知識のうえに、臨床における理学療法士の思考過程、特に疾患の特性を理解し行動化できるまでを学習する。これにより、患者の行動を制限している原因である機能障害を同定し、効果的な理学療法プログラムを立案することができる能力の習得を目標とする。</p>	<p>2年 講義 3単位 (90時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 模擬症例の医学的情報から全身状態の把握①</li> <li>2. " ②</li> <li>3. 模擬症例の活動状況から活動制限の把握①</li> <li>4. " ②</li> <li>5. 患者に必要な機能的な基本動作の選定</li> <li>6. 静的な立位安定性の評価</li> <li>7. 動的な立位安定性の評価</li> <li>8. THA模擬症例① (動作観察)</li> <li>9. " ② (動作記録演習)</li> <li>10. " ③ (動作分析)</li> <li>11. 統合と解釈に関する総説</li> <li>12. THA模擬症例における① (活動制限と機能障害の関連性の説明)</li> <li>13. " ② (機能障害と機能障害の関連性の説明)</li> <li>14. TKA模擬症例① (動作観察)</li> <li>15. " ② (動作記録演習)</li> <li>16. " ③ (動作分析)</li> <li>17. " ④ (統合と解釈)</li> <li>18. 急性期片麻痺模擬症例① (全身状態の把握)</li> <li>19. " ② (動作観察①)</li> <li>20. " ③ ( " ②)</li> <li>21. " ④ (動作記録演習)</li> <li>22. " ⑤ (動作分析)</li> <li>23. " ⑥ (統合と解釈)</li> <li>24. 維持期片麻痺模擬症例① (動作観察①)</li> <li>25. " ② ( " ②)</li> <li>26. " ③ (動作記録演習)</li> <li>27. " ④ (動作分析)</li> <li>28. " ⑤ (統合と解釈)</li> <li>29. リウマチ模擬症例① (動作観察①)</li> <li>30. " ② ( " ②)</li> <li>31. " ③ (動作記録演習)</li> <li>32. " ④ (動作分析)</li> <li>33. " ⑤ (統合と解釈)</li> <li>34. パーキンソン模擬症例① (動作観察①)</li> <li>35. " ② ( " ②)</li> <li>36. " ③ (動作記録演習)</li> <li>37. " ④ (統合と解釈)</li> <li>38. 問題点の抽出 (ICFフレームワークの構築化演習)</li> <li>39. 目標設定に関わる考察①</li> <li>40. " ②</li> <li>41. 治療プログラムの立案① (介入の分類)</li> <li>42. " ② (基本原則)</li> <li>43. " ③ (プログラム順序)</li> <li>44. " ④ (運動学習)</li> <li>45. 理学療法再評価</li> </ol> <p>指定教科書 「統合と解釈がよくわかる実践！ 理学療法評価学」 (医歯薬出版)</p> <p><b>成績評価</b> 後期レポート</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 評価学	検査測定学  [到達目標] 神経学的検査のうち 感覚検査と深部腱反射 について学び、検査の 意義や目的、メカニズ ム、病的反射を理解 し、検査の注意点、方 法、判定までを的確に 実施することができる ことを目標とする。	2年 講義 1単位 (30時間 <u>必修</u> )  1. 反射検査概論 2. 深部腱反射① (腱反射のメカニズム) 3. " ② (検査手技) 4. " ③ (判定方法) 5. " ④ (疾患に応じた検査方法)  6. 表在反射 7. 病的反射 8. 感覚検査概論 9. 感覚に関する解剖生理 10. 感覚検査方法論 11. 表在感覚検査① (疾患に応じた検査方法①) 12. " ② ( " ②) 13. " ③ ( " ③) 14. 深部感覚検査① (位置覚・運動覚) 15. " ② (振動覚・複合感覚)  指定教科書 「ベッドサイドの神経の診かた」 (南山堂) 「PT・OT入門 イラストで わかる評価学」 (医歯薬出版)  <u>成績評価</u> 前期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 評価学	<p>評価学実習</p> <p>[到達目標] 関節可動域（ROM）検査と徒手筋力検査（MMT）について、基本的な知識を以て実際に実施することができるように実技実習を行う。これにより、臨床において検査測定が正確且つ速やかに行うことができることを目標とする。</p>	<p>2年 実習2単位（60時間 <b>必修</b>）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関節可動域（総論）</li> <li>2. 関節可動域検査①（概論）</li> <li>3. " ②（肩甲帯・肩）</li> <li>4. " ③（肘・前腕）</li> <li>5. " ④（手・母指・指）</li> <li>6. " ⑤（股）</li> <li>7. " ⑥（膝・足）</li> <li>8. " ⑦（足部・母趾・足趾）</li> <li>9. " ⑧（頸部・胸腰部）</li> <li>10. 形態測定①（概論）</li> <li>11. " ②（身長・体重・体格指数）</li> <li>12. 四肢長測定（上肢・下肢）</li> <li>13. 周径測定①（上肢・下肢）</li> <li>14. " ②（体幹・胸郭拡張差）</li> <li>15. 検査データと動作の関連性</li> <li>16. 徒手筋力検査（総論）</li> <li>17. 肩関節</li> <li>18. 肘関節・前腕</li> <li>19. 手関節（屈曲・伸展）・手指・手部</li> <li>20. 手指</li> <li>21. 肩甲帯</li> <li>22. 股関節</li> <li>23. 膝関節</li> <li>24. 足関節</li> <li>25. 足部</li> <li>26. 頭部・頸部</li> <li>27. 体幹</li> <li>28. 骨盤</li> <li>29. 安静吸気運動・強制呼気運動</li> <li>30. 検査データと動作の関連性</li> </ol> <p>指定教科書 「PT・OT入門 イラストでわかる評価学」（医歯薬出版） 「新・徒手筋力検査法」（協同医書出版）</p> <p><b>成績評価</b> 前期レポート</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	骨関節疾患理学療法学 [到達目標] 整形外科講義の理解のうえに、理学療法を実施するリスク要因、クリティカルパスの理解及び機能改善に対応した理学療法プログラムを学習する。運動器障害における評価、基本的な運動療法手技と物理療法手技を安全に実践することができることを目標とする。  ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務先(病院・デイサービスセンター)における患者(利用者)の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。	2年 講義4単位(120時間) <b>必修</b> 実習1単位(30時間) <b>必修</b>
			1. 骨折脱臼の運動療法①(頸椎・肋骨)
			2. " ②(鎖骨)
			3. " ③(上腕骨近位端骨折)
			4. " ④(上腕骨骨幹部骨折)
			5. " ⑤(上腕骨顆上骨折)
			6. " ⑥(上腕骨外顆骨折)
			7. " ⑦(腕骨内側上顆骨折)
			8. " ⑧(肘頭骨折)
			9. " ⑨(橈骨近位端骨折)
			10. " ⑩(前腕骨骨折)
			11. " ⑪(橈骨遠位端部骨折)
			12. " ⑫(手根骨・手指骨折)
			13. " ⑬(骨盤骨折)
			14. " ⑭(大腿骨頸部骨折)
			15. " ⑮(胸腰椎圧迫骨折)
			16. " ⑯(大腿骨骨幹部骨折)
			17. " ⑰(膝蓋骨骨折)
			18. " ⑱(脛骨近位端骨折)
			19. " ⑲(下腿果部骨折)
			20. " ⑳(距骨骨折)
			21. " ㉑(踵骨骨折)
			22. " ㉒(肩鎖関節脱臼)
			23. " ㉓(肩・肘・膝蓋骨脱臼)
			24. 疾患別理学療法①(斜頸)
			25. " ②(頸椎椎間板ヘルニア)
			26. " ③(後縦靭帯骨化症)
			27. " ④(脊柱側彎症)
			28. " ⑤(胸郭出口症候群)
			29. " ⑥(変形性脊椎症)
			30. " ⑦(五十肩)
			31. " ⑧(離断性骨軟骨炎)
			32. " ⑨(内反肘・外反肘)
			33. " ⑩(肘部管症候群)
			34. " ⑪(腱鞘炎)
			35. " ⑫(デュブイトレン拘縮)
			36. " ⑬(手根管症候群)
			37. " ⑭(変形性股関節症)
			38. " ⑮(大腿骨頭すべり症)
			39. " ⑯(ペルテス病)
			40. " ⑰(腰部椎間板ヘルニア)
			41. " ⑱(腰椎分離・すべり症)
			42. " ⑲(変形性膝関節症)
			43. " ㉑(オスグットシュラッター病)
			44. " ㉑(膝蓋軟骨軟化症)
			45. " ㉒(膝蓋腱炎・鷲足炎)
			46. " ㉓(腸脛靭帯炎)
			47. " ㉔(アキレス腱炎)
			48. " ㉕(反張膝・内外反膝)
			49. " ㉖(コンパートメント症候群)
			50. " ㉗(シンスプリント)
			51. " ㉘(疲労骨折・外脛骨)
			52. " ㉙(扁平足・外反母趾)
			53. 軟部組織損傷①(インピンジメント症候群)
			54. " ②(腱板断裂)
55. " ③(二腕二頭筋長頭腱断裂)			

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	骨関節疾患理学療法学	<p>56. 軟部組織損傷④(TFCC損傷)</p> <p>57. " ⑤(上腕骨外側上顆炎)</p> <p>58. " ⑥(手の腱損傷・槌指)</p> <p>59. " ⑦(大腿部の肉離れ)</p> <p>60. " ⑧(膝靭帯損傷・半月月板)</p> <p>61. " ⑨(アキレス腱断裂)</p> <p>62. 軟部組織損傷①(腓骨筋腱脱臼)</p> <p>63. " ②(足関節捻挫)</p> <p>64. " ③(足底筋膜炎)</p> <p>65. 末梢神経損傷①(橈骨神経麻痺)</p> <p>66. " ②(正中神経麻痺)</p> <p>67. " ③(尺骨神経麻痺)</p> <p>68. " ④(総腓骨神経麻痺)</p> <p>69. 末梢循環障害①(フォルクマン拘縮)</p> <p>70. " ②(キーンベック病)</p> <p>71. " ③(第1ケーラー(Kohler)病)</p> <p>72. " ④(閉塞性血栓血管炎)</p> <p>73. " ⑤(静脈血栓症)</p> <p>74. 関節リウマチ</p> <p>75. 熱傷</p> <p>指定教科書 「標準整形外科学」(医学書院) 「運動器疾患の治療とリハビリテーション」(メジカルビュー) 「リハビリテーション医療に活かす画像のみかた」(南江堂) 骨関節疾患理学療法学 Work book 電子版</p> <p>成績評価 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 理学療法	脳血管障害理学療法学  [到達目標] 理学療法士としての脳血管障害についての理解、脳血管障害後遺症者に対する科学的視点に基づいた臨床推論から理学療法を実施することができる能力を養うことを目標とする。	2年 講義3単位(90時間) <b>必修</b> 実習1単位(30時間) <b>必修</b>  1. 脳血管障害評価概論 2. 脳血管障害の障害 3. 一次的障害と二次的障害 4. 脳血管障害の病態 5. 運動障害① 6. " ② 7. " ③ 8. " ④ 9. " ⑤ 10. 感覚障害 11. 高次脳機能障害① 12. " ② 13. " ③ 14. " ④ 15. " ⑤ 16. " ⑥ 17. " ⑦ 18. " ⑧ 19. " ⑨ 20. " ⑩ 21. " ⑪ 22. " ⑫ 23. " ⑬ 24. 意識障害① 25. " ② 26. 認知症① 27. " ② 28. 合併症① 29. " ② 30. " ③ 31. " ④ 32. " ⑤ 33. 予後予測① 34. " ② 35. " ③ 36. " ④ 37. 画像① 38. " ② 39. 理学療法評価① 40. " ② 41. 理学療法評価の実際① 42. " ② 43. " ③ 44. " ④ 45. " ⑤ 46. " ⑥ 47. " ⑦ 48. " ⑧ 49. " ⑨ 50. " ⑩ 51. " ⑪ 52. " ⑫ 53. 非麻痺側機能検査 54. 装具① 55. " ②



分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	脳血管障害理学療法学	<p>56. 嚥下障害 57. ADLトレーニング 58. 急性期の理学療法 59. 回復期の理学療法 60. 維持期の理学療法</p> <p>指定教科書 「リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた」(南江堂) 「PT・OT入門 イラストで わかる評価学」(医歯薬出版) 「標準理学療法学 神経理学療法学」 (医学書院) 「脳血管障害理学療法学」電子版 (関西医療学園専門学校)</p> <p><u>成績評価</u> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法	神経筋疾患理学療法学 [到達目標] 神経筋疾患を対象に各疾患の病態の知識と症状を把握し、重症度やADLの知識を高め、各疾患に特化した重症度分類を理解し、病期を意識した理学療法評価と運動療法を行うことができる能力を養うことを目標とする。	2年 講義 1単位 (30時間 <u>必修</u> ) 実習 1単位 (30時間 <u>必修</u> ) 1. 神経筋疾患概論 2. パーキンソン症候群① (病態) 3. " ② (パーキンソン氏病) 4. " ③ (症状) 5. " ④ (症状の機序) 6. " ⑤ (理学療法評価) 7. " ⑥ (運動療法) 8. 脊髄小脳変性症① (病態) 9. " ② (症状) 10. " ③ (症状の機序) 11. " ④ (理学療法評価) 12. " ⑤ (運動療法) 13. ギランバレー症候群① (病態) 14. " ② (症状) 15. " ③ (症状の機序) 16. " ④ (理学療法評価) 17. " ⑤ (運動療法) 18. 多発性硬化症① (病態) 19. " ② (症状) 20. " ③ (症状の機序) 21. " ④ (理学療法評価) 22. " ⑤ (運動療法) 23. 筋萎縮性側索硬化症① (病態) 24. " ② (症状) 25. " ③ (症状の機序) 26. " ④ (理学療法評価) 27. " ⑤ (運動療法) 28. 重症筋無力症① (病態と症状) 29. " ② (理学療法評価と運動療法) 30. 神経難病の環境設定と在宅ケア  指定教科書 「ベッドサイドの神経の診かた」 (南山堂) 「標準理学療法学 神経理学療法学」 (医学書院) 「リハビリテーション医療に活かす画像のみかた」 (南江堂)  <u>成績評価</u> 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	<p>小児疾患理学療法学</p> <p>[到達目標] 脳性麻痺など肢体不自由児を主な対象としていた小児理学療法の領域は、早期産児の理学療法や発達障害領域の理学療法など多様化しており、これに対応できる小児領域の各疾患の特性と障害の基本的理解、理学療法評価や理学療法実施までの過程を理解することを目標とする。</p>	<p>2年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b>) 実習 1単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児疾患概論 (発達障害の運動療法)</li> <li>2. 脳性麻痺① (総論・定義・分類)</li> <li>3. " ② (痙直型両麻痺①)</li> <li>4. " ③ ( " ②)</li> <li>5. " ④ ( " ③)</li> <li>6. " ⑤ (痙直型片麻痺①)</li> <li>7. " ⑥ ( " ②)</li> <li>8. " ⑦ ( " ③)</li> <li>9. " ⑧ (痙直型四肢麻痺①)</li> <li>10. " ⑨ ( " ②)</li> <li>11. " ⑩ (アテトーゼ型①)</li> <li>12. " ⑪ ( " ②)</li> <li>13. " ⑫ (失調型)</li> <li>14. 脳性麻痺児の評価スケール</li> <li>15. 脳性麻痺児に対する問診①</li> <li>16. " ②</li> <li>17. 筋ジストロフィー症①</li> <li>18. " ②</li> <li>19. " ③</li> <li>20. ダウン症候群①</li> <li>21. " ②</li> <li>22. " ③</li> <li>23. 二分脊椎症①</li> <li>24. " ②</li> <li>25. " ③</li> <li>26. 重症心身障害児①</li> <li>27. " ②</li> <li>28. " ③</li> <li>29. 精神発達遅滞児①</li> <li>30. " ②</li> </ol> <p>指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト」 (南江堂)</p> <p><b>成績評価</b> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	<p>脊髄損傷理学療法学</p> <p>[到達目標] 脊髄損傷の病態を理解し、損傷高位別の臨床像と理学療法評価及び運動療法について学び、特徴的な随伴症状と合併症などのリスク管理、ADL自立と社会復帰に向けた補装具の知識を養うことを目標とする。</p> <p>☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務先（リハビリテーション病院）における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。</p>	<p>2年 講義 1単位（30時間 <b>必修</b>）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脊髄損傷の解剖</li> <li>2. 理学療法評価</li> <li>3. 肺理学療法①</li> <li>4. " ②</li> <li>5. 車椅子処方①（車椅子処方）</li> <li>6. " ②（車椅子練習）</li> <li>7. 治療指導①</li> <li>8. " ②</li> <li>9. 排尿・尿路障害①</li> <li>10. " ②</li> <li>11. 脊髄損傷と性機能</li> <li>12. 脊髄損傷とスポーツ</li> <li>13. 脊髄損傷と自動車運転</li> <li>14. 脊髄損傷者の実際①（特別介護施設見学）</li> <li>15. " ②（ " ）</li> </ol> <p>指定教科書 「脊髄損傷に対するPT・OTアプローチ 臨床経過モデルに基づく介入」 （メジカルビュー） 資料デジタル配信</p> <p><b>成績評価</b> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	老年理学療法学 [到達目標] 超高齢社会の環境と問題点を理解し、ヒトの加齢に伴う生理・運動・精神機能の変化や高齢者に多くみられる疾患・病態について学習する。加齢変化や高齢者の疾患・障害特性を踏まえたうえで、高齢者を対象とした理学療法法の進め方やリスク管理等について適切に思考することができることを目標とする。	2年 講義 1単位 (30時間 <b>必修</b> ) 1. 高齢社会と理学療法 2. 高齢者の特性 3. 高齢者の障害と理学療法① 4. " ② 5. 高齢者の理学療法① (ストロークユニット) 6. " ② (急性期病棟) 7. " ③ (回復期病棟) 8. " ④ (介護老人保健施設) 9. " ⑤ (介護老人福祉施設) 10. " ⑥ (在宅) 11. " ⑦ (訪問リハビリテーション) 12. " ⑧ (通所リハビリテーション) 13. " ⑨ (通所介護) 14. " ⑩ (環境調整①) 15. " ⑪ ( " ②) 指定教科書 「Crosslink理学療法学テキスト 高齢者理学療法学」(メジカルビュー) 老年理学療法学Work book <b>電子版</b> <b>成績評価</b> 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	内部障害理学療法学 [到達目標] 呼吸不全、循環器疾患、代謝障害など各病態の特徴を理解し、心電図・心エコーモニターの診かた、人工呼吸器・人工透析の仕組みについての知識を深め、フィジカルアセスメントに必要な聴診・血圧測定技術を習得する。また、臨床における疾患別の理学療法評価のポイント、運動療法の留意点、治療プログラムの進め方を理解することを目標とする。	2年 講義 1単位 (30時間) <span style="border: 1px solid black;">必修</span> 実習 1単位 (30時間) <span style="border: 1px solid black;">必修</span> 1. 内部障害の定義と種類 2. 呼吸器系の解剖 3. 呼吸器系の生理 4. 換気障害の区分と医学的検査 5. 呼吸器疾患の画像の診かた 6. 血液ガス分析と酸塩基平衡 7. 呼吸不全① 8. " ② 9. 呼吸のフィジカルアセスメント① 10. " ② 11. 呼吸理学療法① 12. " ② 13. 喀痰等の吸引 14. 人工呼吸器 15. 循環器系の解剖 16. 循環器系の生理 17. 心電図の診かた① 18. " ② 19. 虚血性心疾患 20. 心不全 21. 心エコーの診かた 22. 心臓リハビリテーション① 23. " ② 24. 循環器のフィジカルアセスメント① 25. " ② 26. 糖尿病の理学療法評価 27. 糖尿病の運動療法 28. 腎不全の理学療法評価 29. 腎不全の運動療法 30. がんリハビリテーション  指定教科書「Crosslink理学療法学テキスト 内部障害理学療法学」(メジカルビュー) 「リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた」(南江堂) 内部障害理学療法学Work book <span style="border: 1px solid black;">電子版</span>  成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法	<p>義肢装具学</p> <p>[到達目標] 各部位での切断に対応する義肢の種類と利点、四肢及び体幹の形態が残存している場合に用いる装具の種類と利点を学習することにより、機能構造障害に適応する義肢・装具の選定ができることを目標とする。</p> <p>☆実務経験教員担当科目 義肢装具士が開設する義肢装具製作所における義肢・装具の製作及び適合判定等についてスライドを用いて講義を行うとともに、装具加工の実習により臨床的に教授する。</p>	<p>2年 講義 1単位 (30時間 <span style="border: 1px solid black;">必修</span>) 実習 1単位 (30時間 <span style="border: 1px solid black;">必修</span>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歩行と義肢装具のバイオメカニクス</li> <li>2. 切断</li> <li>3. 義肢</li> <li>4. 下腿義足</li> <li>5. 大腿義足</li> <li>6. 股義足</li> <li>7. 膝義足</li> <li>8. サイム義足</li> <li>9. 足部部分義足</li> <li>10. 義手</li> <li>11. 切断者のリハビリテーション</li> <li>12. 装具</li> <li>13. 下肢装具① (片麻痺)</li> <li>14. " ② (対麻痺)</li> <li>15. 膝装具 (スポーツ障害)</li> <li>16. 小児装具① (股関節装具)</li> <li>17. " ② (二分脊椎)</li> <li>18. " ③ (筋萎縮症)</li> <li>19. 整形外科的治療装具</li> <li>20. 靴型装具・足装具</li> <li>21. 頸椎装具</li> <li>22. 側彎装具</li> <li>23. 腰背痛の装具</li> <li>24. 脳性麻痺の装具</li> <li>25. リウマチの装具</li> <li>26. 末梢神経損傷の装具</li> <li>27. 術前・術後の装具</li> <li>28. 頸髄損傷の上肢装具</li> <li>29. 義肢装具の材料学</li> <li>30. 義肢装具の制度</li> </ol> <p>指定教科書 「義肢装具学」 (医学書院) 義肢装具学 Work book <span style="border: 1px solid black;">電子版</span></p> <p><span style="border: 1px solid black;">成績評価</span> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	物理療法学 [到達目標] 物理療法についての定義・目的・対象・歴史・実施するうえで必要な知識を学び、各種療法の生理学的機序や適応、禁忌について理解すること、また実技実習による各種治療の実施を通して、物理療法について理解することを目標とする。	2年 講義 1単位 (30時間 <span style="border: 1px solid black;">必修</span> ) 実習 1単位 (30時間 <span style="border: 1px solid black;">必修</span> ) 1. 物理療法学総論 2. 物理療法におけるリスク管理 3. 温熱療法総論 4. 温熱療法各論 5. 温熱療法実技 6. 寒冷療法総論 7. 寒冷療法各論 8. 寒冷療法実技 9. 電磁波療法総論 10. 電磁波療法各論① (超短波療法) 11. " ② (極超短波療法) 12. 電磁波療法実技 13. 光線療法総論 14. 光線療法各論 15. 光線療法実技 16. 超音波療法総論 17. 超音波療法実技 18. 電気療法総論 19. 電気療法各論① (経皮的電気神経刺激療法) 20. " ② (機能的電気刺激療法) 21. " ③ (治療的電気刺激療法) 22. 電気療法実技 23. 水治療法総論 24. 水治療法各論 25. 水治療法実技 26. 牽引療法総論 27. 牽引療法各論 28. 牽引療法実技 29. マッサージ療法総論 30. マッサージ療法実技  指定教科書 「物理療法学」 (金原出版) 物理療法学 Work book <span style="border: 1px solid black;">電子版</span>  <span style="border: 1px solid black;">成績評価</span> 前期試験



分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	地域理学療法学	<p>地域理学療法学総論</p> <p>[到達目標]  地域医療の成り立ち及び施設間、職員間の連携の重要性を理解し、地域での暮らしを支えるために必要な基礎知識について学習する。これにより、地域医療を支える制度的環境や社会資源等のシステムを正しく理解し、そのなかにおいて活動する理学療法士の役割を理解することを目標とする。</p> <p>☆実務経験教員担当科目  理学療法士が勤務する病院・介護老人保健施設における患者（入所者）の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。</p>	<p>2年 講義 2単位（60時間 <b>必修</b>）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域理学療法学概念</li> <li>2. 地域リハビリテーションを支えるシステム</li> <li>3. 地域理学療法学の展開①（対象者の捉え方）</li> <li>4. " ②（介護認定とケアマネジメント①）</li> <li>5. " ③（ " ②）</li> <li>6. " ④（入所サービス①）</li> <li>7. " ⑤（ " ②）</li> <li>8. " ⑥（通所サービス①）</li> <li>9. " ⑦（ " ②）</li> <li>10. " ⑧（訪問サービス①）</li> <li>11. " ⑨（ " ②）</li> <li>12. " ⑩（介護予防①）</li> <li>13. " ⑪（ " ②）</li> <li>14. " ⑫（集団対応）</li> <li>15. " ⑬（地域連携①）</li> <li>16. " ⑭（ " ②）</li> <li>17. " ⑮（他職種との連携）</li> <li>18. " ⑯（施設の取組み①）</li> <li>19. " ⑰（ " ②）</li> <li>20. 生活環境の整備①（住宅改修①）</li> <li>21. " ②（ " ②）</li> <li>22. " ③（福祉用具①）</li> <li>23. " ④（ " ②）</li> <li>24. " ⑤（シーティング）</li> <li>25. 社会保障制度①（年金保険）</li> <li>26. " ②（医療保険①）</li> <li>27. " ③（ " ②）</li> <li>28. " ④（労働保険）</li> <li>29. " ⑤（介護保険①）</li> <li>30. " ⑥（ " ②）</li> </ol> <p>指定教科書 「標準理学療法学  地域理学療法学」（医学書院）  資料デジタル配信  「保健行政法学第14版」  （関西医療学園専門学校）</p> <p><b>成績評価</b> 前・後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	地域理学療法学	<p>地域理学療法学各論</p> <p>[到達目標]  地域包括ケアシステムの構築が進められるなかで、病病・病診・病介連携など医療と福祉の連携及び他職種の協働を理解し、介護を含む医療提供施における対象疾患に対するアプローチ、在宅医療における訪問・通所リハビリテーション等について学習し、2年次の地域理学療法総論の知識のうえに、地域理学療法に関する応用的能力を養うことを目標とする。</p> <p>☆実務経験教員担当科目  理学療法士が、各々所属する医療機関における患者の症例及びこれに対する理学療法、ケアマネジメント等について、スライドを用いて臨床的に教授している。</p>	<p>3年 講義 1単位 (30時間 <u>必修</u>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域理学療法① (脳血管疾患)</li> <li>2. " ② (運動器疾患)</li> <li>3. " ③ (呼吸器疾患)</li> <li>4. " ④ (神経筋疾患)</li> <li>5. " ⑤ (脊髄損傷)</li> <li>6. " ⑥ (循環器疾患)</li> <li>7. " ⑦ (人工透析)</li> <li>8. " ⑧ (がん患者)</li> <li>9. " ⑨ (認知症)</li> <li>10. " ⑩ (摂食・嚥下障害)</li> <li>11. " ⑪ (移乗介助)</li> <li>12. " ⑫ (地域看護)</li> <li>13. " ⑬ (作業療法)</li> <li>14. " ⑭ (言語聴覚療法)</li> <li>15. " ⑮ (小児)</li> </ol> <p>指定教科書 資料デジタル配信</p> <p><u>成績評価</u> 後期レポート</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	臨床実習	<p>見学実習</p> <p>[到達目標]          患者様の生活状況を把握する際のコミュニケーションスキルを習得する。患者様が抱える問題点（活動制限）や生活像を総合的に把握することができることを目標とする。また指導者の理学療法の評価・実践を見学し、患者様の動作障害の特徴を捉えるようになる。</p>	<p>2年 実習1単位（40時間 <u>必修</u>）</p> <p>学外実習施設（病院・診療所・介護老人保健施設）で医療面接の実施および理学療法を見学する実習</p> <p>（5～11月の期間内で、7日間）</p> <p><u>成績評価</u> 実習評価（前期・後期）</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	臨床実習	<p>評価実習</p> <p>[到達目標]          評価学実習は、学内で指導した検査・測定          の知識、技術を患者様に実践できることを習得する。          3年次の総合臨床実習に備えて、臨床現場          で医療面接や医学的情報を経験し、患者様の          個人因子および環境因子も含めた情報収集を          整理し、患者様が抱える問題点や生活像を総          合的に把握することを目標とする。</p>	<p>2年 実習3単位 (120時間 <b>必修</b>)</p> <p>学外実習施設 (病院・診療所・介護老人保健施設) で検査測定を実施する評価実習          実習評価前試験及び実習後評価セミナー</p> <p>(2～3月 / 14日間)</p> <p><b>成績評価</b> 実習評価          (実習前評価試験・学外施設・実習後評価試験)</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	臨床実習	<p>臨床実習</p> <p><b>[到達目標]</b>  指定実習施設において総合治療実習を行う。卒後、即戦力となる理学療法士の育成を目標として、3期制による臨床実習の実施により、情意面・知識面・技術面の成長を意識し、医療人としての自覚と理学療法士としての高い臨床能力を養うことを目標とする。</p>	<p>3年 実習 16単位 (640時間 <b>必修</b>)</p> <p>学外実習施設 (病院・診療所・介護老人保健施設・通所リハビリテーション施設等) における総合治療実習</p> <p>I期 (4～5月/6週間)</p> <p>II期 (5～6月/6週間)</p> <p>III期 (7～8月/6週間)</p> <p><b>成績評価</b> 実習評価 (3期総合) (学外実習施設・実習後評価試験)</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	<p>科学的思考の基盤</p> <p>人間と生活社会の理解</p>	<p>人間関係論</p> <p>[到達目標]          心理学的人間理解に基づく人間関係の築き方、他者との関わり方、コミュニケーションの取り方についての理解を深め、日常の対人関係への活用を学習する。また、心理学に基づいた人間関係に関する理論及び知見の習得を目標とする。</p>	<p>1年 講義3単位(45時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ旧来の関係はうまくいかなくなってきたのか？</li> <li>2. 正の注目・負の注目</li> <li>3. 適切な行動・不適切な行動</li> <li>4. 不適切な行動を修正する4原則</li> <li>5. 人間関係において負の注目を得ようとする場合</li> <li>6. 批判は勇気をくじく</li> <li>7. 罰の望ましくない効果</li> <li>8. 相手の話を聞くためのテクニック</li> <li>9. 褒めることの弊害</li> <li>10. 共感と勇気づけ</li> <li>11. 失敗した時こそ勇気づけを</li> <li>12. 課題の分離</li> <li>13. 共同の課題</li> <li>14. 相手を傷つけないで意見を伝える</li> <li>15. 感情的になってしまったら</li> <li>16. 体験を通じて学ぶチャンスを提供する</li> <li>17. 相手からの依頼を断らなければならないとき</li> <li>18. 社会的結末</li> <li>19. ルールと約束</li> <li>20. 不合理なルールも守るべきなのか？</li> <li>21. 平等とは？</li> <li>22. 尊敬と信頼</li> <li>23. 社会性・協調性</li> </ol> <p>指定教科書 資料デジタル配信</p> <p><b>成績評価</b> 前期レポート</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会と理解	法学・保健行政法学 [到達目標] 医事及び保健衛生、社会福祉の各制度のしくみを通して、医療従事者として必要な保健医療福祉に関する制度的な理解を深める。	1年 講義 4単位 (60時間 <b>必修</b> ) 1. 社会福祉概論① 2. " ② 3. 公的扶助① 4. " ② (生活保護) 5. 児童福祉① 6. " ② (障害児) 7. 母子寡婦父子福祉・母子保健 8. 障害者福祉① 9. " ② (身体障害者①) 10. " ③ ( " ②) 11. " ④ (知的障害者) 12. " ⑤ (精神障害者) 13. " ⑥ (雇用の促進) 14. " ⑦ (障害者の総合支援①) 15. " ⑧ ( " ②) 16. 老人福祉① 17. " ② (高齢者医療) 18. " ③ (高齢者介護) 19. 法の基礎 (日本国憲法含む) 20. 衛生行政の沿革 21. 医療を行う人① (理学療法士・作業療法士①) 22. " ② ( " ②) 23. " ③ ( " ③) 24. " ④ (医業・歯科医業関係①) 25. " ⑤ ( " ②) 26. " ⑥ (医業類似行為・薬務・栄養・心理) 27. 医療を行う場所① 28. " ② 29. " ③ 30. 地域保健・健康増進  指定教科書 「医療福祉と社会の理解」 <b>電子版</b> 改訂第15版 (関西医療学園専門学校)  <b>成績評価</b> 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	健康科学論 [到達目標] 健康寿命の延伸など健康問題が多様化しているなかで、理学療法士として対象者の健康に関する問題点を明らかにし、予防的視点や健康増進のための方向性について考える力を習得することを目標とする。	1年 講義 4単位 (60時間 <b>必修</b> ) 1. 概論と定義 2. 筋収縮とエネルギー供給系 3. 筋線維の種類と収縮様式 4. 中枢神経系の機能 5. 末梢神経系の機能 6. 運動における循環器系 7. 運動における呼吸器系 8. 運動におけるホルモンの役割 9. 運動と栄養 10. 老化に伴う身体機能の変化 11. 筋の触察 ① (上肢の筋①) 12. " ② ( " ②) 13. " ③ ( " ③) 14. " ④ ( " ④) 15. " ⑤ ( " ⑤) 16. " ⑥ (下肢の筋①) 17. " ⑦ ( " ②) 18. " ⑧ ( " ③) 19. " ⑨ ( " ④) 20. " ⑩ ( " ⑤) 21. " ⑪ ( " ⑥) 22. " ⑫ ( " ⑦) 23. " ⑬ (体幹の筋①) 24. " ⑭ ( " ②) 25. " ⑮ ( " ③) 26. " ⑯ ( " ④) 27. " ⑰ ( " ⑤) 28. " ⑱ ( " ⑥) 29. " ⑲ ( " ⑦) 30. " ⑳ ( " ⑧)  指定教科書 「骨格筋の形と触察法」 (大峰閣) 「入門運動生理学」 (杏林書院)  <b>成績評価</b> 後期レポート



分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	<p>科学的思考の基盤</p> <p>人間と生活社会の理解</p>	<p>医療英語</p> <p>[到達目標] 臨床において使用する解剖学用語や運動学用語及び主な筋肉について、英語表記ができることを学習の目標とする。</p>	<p>1年 講義2単位 (30時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体各部位の一般的名称 Useful information</li> <li>2. 主要な骨の名称①</li> <li>3. " ②</li> <li>4. Anatomic terminology</li> <li>5. The planes of motion</li> <li>6. Fundamental movement</li> <li>7. Types of muscle contraction</li> <li>8. 肩関節に関連する主要な筋肉の英語表記①</li> <li>9. " ②</li> <li>10. 肘関節に関連する主要な筋肉の英語表記</li> <li>11. 手関節に関連する主要な筋肉の英語表記</li> <li>12. 股関節に関連する主要な筋肉の英語表記①</li> <li>13. " ②</li> <li>14. 膝関節に関連する主要な筋肉の英語表記</li> <li>15. 足関節に関連する主要な筋肉の英語表記</li> </ol> <p>指定教科書 医療英語 Work book <b>電子版</b></p> <p><b>成績評価</b> 前期レポート</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の 基盤 人間と生活	<p>医療統計学</p> <p>[到達目標] 科学的根拠に基づく医療（EBM）が重視されるなかで、理学療法士が研究を行う際に必要とされる統計学を学ぶことにより、医療統計の基礎を理解することを目標とする。</p>	<p>3年 講義 2単位（30時間 <b>必修</b>）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学的検定法の概要</li> <li>2. 理学療法研究と統計学</li> <li>3. 研究デザイン</li> <li>4. データの型と記述統計</li> <li>5. 文献の収集・読解</li> <li>6. 研究の進め方</li> <li>7. 統計手法</li> <li>8. データの型と記述統計</li> <li>9. クロス集計と t 検定①</li> <li>10.           "           ②</li> <li>11. 分散分析①</li> <li>12. 分散分析②</li> <li>13. 相関と回帰</li> <li>14. ランダム化比較試験</li> <li>15. 統計実践演習</li> </ol> <p>指定教科書「標準理学療法学 理学療法研究法」 （医学書院）</p> <p><b>成績評価</b> 後期試験</p>

分野	教育内容	授業科目	授業項目
選択必修	<p>卒業考査</p> <p>[到達目標]            国家試験対策として、過去の国家試験出題問題を精査し、分野別に整理した本校編集の問題集の解説及び弱点科目の講義、各種模擬試験を実施し、繰り返しの学習を徹底して知識の定着を図る。また、学生の習熟度による個別的指導を行い、確実に国家試験に合格できる学力をつけることを目標とする。</p>	<p>3年 講義3単位 (90時間 <b>必修</b>)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験対策①</li> <li>2. 国家試験対策②</li> <li>3. 国家試験対策③</li> <li>4. 国家試験対策④</li> <li>5. 医療経営概論⑤</li> <li>6. 国家試験対策⑥</li> <li>7. 国家試験対策⑦</li> <li>8. 国家試験対策⑧</li> <li>9. 国家試験対策⑨</li> <li>10. 医療経営概論⑩</li> <li>11. 国家試験対策⑪</li> <li>12. 国家試験対策⑫</li> <li>13. 国家試験対策⑬</li> <li>14. 国家試験対策⑭</li> <li>15. 国家試験対策⑮</li> <li>16. 国家試験対策⑯</li> <li>17. 国家試験対策⑰</li> <li>18. 国家試験対策⑱</li> <li>19. 国家試験対策⑲</li> <li>20. 国家試験対策⑳</li> <li>21. 国家試験対策㉑</li> <li>22. 国家試験対策㉒</li> <li>23. 国家試験対策㉓</li> <li>24. 国家試験対策㉔</li> <li>25. 国家試験対策㉕</li> <li>26. 国家試験対策㉖</li> <li>27. 国家試験対策㉗</li> <li>28. 国家試験対策㉘</li> <li>29. 国家試験対策㉙</li> <li>30. 国家試験対策㉚</li> <li>31. 国家試験対策㉛</li> <li>32. 国家試験対策㉜</li> <li>33. 国家試験対策㉝</li> <li>34. 国家試験対策㉞</li> <li>35. 国家試験対策㉟</li> <li>36. 国家試験対策㊱</li> <li>37. 国家試験対策㊲</li> <li>38. 国家試験対策㊳</li> <li>39. 国家試験対策㊴</li> <li>40. 国家試験対策㊵</li> <li>41. 国家試験対策㊶</li> <li>42. 国家試験対策㊷</li> <li>43. 国家試験対策㊸</li> <li>44. 国家試験対策㊹</li> <li>45. 国家試験対策㊺</li> </ol> <p>指定教科書 国家試験問題資料</p> <p>医歯薬出版模擬試験 校内模擬試験</p> <p><b>成績評価</b> 後期試験 (卒業試験)</p>	